一人一人の子どもを大切にする取組

一人一人の子どもを大切にする取組１～校内支援体制～

全校で特別支援教育に取り組むためには校内支援体制を整えることが大切です。特に通常の学級における特別支援教育を推進するためには、以下の２点について取組の再確認が必要です。

〇どの学級にも在籍している学習面・生活面で支援が必要な子どもに、より適切な指導・支援を考える。

〇学級経営・集団作りで大事にすべきことを考える。

〇学習面・生活面で支援が必要な子どもの実態を、年度当初に職員全員で共通理解する。
〇各学級の担任が気がかりな子どもの学習面・生活面の実態を把握し、各学年の特別支援教育担当や教育相談担当、特別支援教育コーディネーター、校内委員会に伝える。
〇特別支援教育コーディネーターを複数体制とする。子どもの実態を把握して、支援の仕方の相談に応じたり、授業を参観したりする。
〇ケース会議を月１回、また必要に応じて開催し、支援内容や支援方法を検討する。
〇校内委員会で個別の支援を必要とする子どもを共通理解し、支援方法を決定する。
〇講師を招いて特別支援教育に係る研修を実施したり、事例を基に実態の捉え方や指導、支援の方法について話し合ったりして、教職員の特別支援教育に対する意識を高める。
〇個別の指導計画を、子どもの様子が分かりやすく、指導実践につなげる形式に見直し、取組を積み重ねていく。

実践例

（１）実態把握「全教職員参加のワークショップ型事例検討会※5」
KJ法を参考にし、模造紙に付箋を貼り付けるという作業を行いました。
できあがったものは多くの教師から得た貴重な情報が全て構造化されており、子どもの全体像をとらえるのに有効である。また、その子どもの課題や特性が浮かび上がってくることで、支援の手がかりが得られることも期待できます。

（２）個別の指導計画「中学校の通常の学級における個別の指導計画の作成」
全職員が参加する現職教育で、個別の指導計画を作成するワークショップを行いました。
ワークショップは各学年に別れて同時進行し、他学年所属の教科担任は必要に応じて移動します。実態を付箋に書いて貼るところから始まり、目標、支援の手立てを考えて付箋に記入して模造紙に貼るという手順で行いました。

取組の効果

〇指導に関する同じ悩みを共有することにより教師間の理解が深まりました。
〇様々な場面における子どもたちの様子を知ることができました。
・教科や単元によって好き嫌いや得意不得意がある。
・うまくいった指導事例から支援の方法を学ぶことができる。
〇学習面・生活面で支援が必要な子どもの実態を全体的に捉えることにより、様々な場面で多くの教師が子どもたちに声をかけることができるようになってきました。
〇教師間で「特別でない特別支援教育」に関する理解が進み、「どの子もできる・わかる」ことを大切にしていこうという事を再確認できました。
〇指導や支援の方法が具体的に実践できるようになってきました。
〇今までの取組を通して一人一人を大事にしてきたことを再確認し、その中で、継続していくこと、変えていくこと、新たに取り入れていくことを確認することができました。

一人一人の子どもを大切にする取組２ ～学級経営・集団作り１～

学級の様子
・学級全体にルールの定着が弱い。授業中は私語や手遊びが見られる。
・満足感の低い子どもたちのストレスが、友だち関係のトラブルの要因になり、学級の雰囲気や活動意欲を低下させている。
・友だちを攻撃する言動や陰口等、友だち関係のトラブルが少なくない。
・不安気な表情の子どもが多く見られる。

このような学級において「安心感のある学級」をめざして、以下の取組を行いました。

○『よりよい学校生活と友だちづくりのためのアンケート*hyper*-QU※6』を実施しました。
〔分かったこと〕
学校生活について満足群と不満足群の子どもたちを把握するとともに、要支援群の子どもたちについても把握することができました。
〔行ったこと〕
子ども一人一人の日々の思いを知るために 、担任と子どもがミニノート（交換日記）で交流しました。
あらためてどの授業においても学習規律を確認し、子どもたちに伝えました。
子どもたちへの丁寧なかかわりを実現するため、複数教員による授業を実施しました。
調査の結果を踏まえ、子どもたちに向けた教師のアンテナを高くし、表情や行動等の観察を丁寧に行いました。
○グループ・アプローチ※7という手法を活用し、子どもたちのコミュニケーションが活発になる工夫をしました。
○友だちと関わり合って、みんなで学び合うという体制を作っていくために、学習形態・教材・教具・指導方法を工夫するとともに、学級全体で「ルールを守ること」について学習を行いました。

取組の効果
○*hyper*-QUの実施や活用は、学級の状態を知る客観的な資料を得ることとなり、個別や学級全体への的確な対応ができるようになりました。また教師が子どもを捉えるとき「観察と子どもの実態にはズレがあるかもしれない」と気づくことで、子どもへの丁寧な関わりが生まれ、学級内のルールや学習規律が守られるようになりました。
○グループ・アプローチを取り入れることで、子どもたちがいろいろな友だちの良さに気付くことができました。また、決まった友だちだけでなく関わりも広がりました。
○授業のめあてや単元の流れを示すことで、子どもたちが見通しをもって主体的に学習に取り組むようになってきました。また、授業形態や指導方法の工夫でわかる授業が展開されました。
○トラブルが多くて進まなかった「みんな遊び」が、実施前に遊びの内容とルールを知らせ全員で確認した上で行うことで、トラブルが少なくなりました。
○ミニノートでの交流により、子どもとのコミュニケーションが深まり、一人一人の子どもの興味や関心を知ることができました。さらに、これをきっかけとして子どもの気持ちに寄り添うことができ、子ども達の表情が穏やかに変わってきました。

一人一人の子どもを大切にする取組３～学級経営・集団づくり２～

学級の様子
・小学校３年生の学級で、教科学習に配慮の必要な子どもが複数いる。
・通級指導教室に通級している子どもが数名いる。
・全体的には、課題に対し積極的に取り組もうとする子どもが多い。
・教科学習や学校生活において、他の子の活動を認めたり、柔軟に活動を変化させ対応したりすることが苦手な子どもがいる。

このような学級において、「居心地のいい学級・認めあえる関係作り」をテーマに以下の取組を行いました。

○自己肯定感を育てる。

右写真の**「すてきファイル」**を作成し、自分には、「こんなにたくさんの素敵なところがあるんだ。」と子どもが実感し、自分のことを好きになれるように視覚的に意識させました。また、いつでも自由に見ることができるように誰でも手の届く所へ置きました。

「すてきファイル」は年間を通して、自分がすてきだなと思うものや、すてきな思い出を綴っていくファイルです。賞状、作文や習字などの作品、テスト、行事の感想や写真、思い出や誕生日の寄せ書き、友だちから見つけてもらったすてきな所なども綴るようにしました。

○対人関係やコミュニケーションのスキルを高める。

年間を通して、道徳や特別活動の時間に、学級全体の社会性を高めるために学級の子どもたち全員で、挨拶や謝り方など、友だちとのよりよい関わり方について学習しました。「ふわっとことばは まほうのことば」では、学習後、「ふわっとことばの木」を作成し、学級の全員が相手を思いやる言葉を使えた日には、果物のシールを貼り、木の実が多くなっていくのがわかるようにしました。

「ソーシャルスキルワーク（日本標準）ステップ３」挨拶のスキルを土台に、気づきや学びを促し、具体的な場面でのソーシャルスキル指導につなげました。

取組の効果

すてきファイルの思い出を書く際、文章だけでなく、写真を効果的に使うようにしました。文章だけで表すよりも、わかりやすく、子どもたちがその時の気持ちを思い出しやすくなりました。また、素敵なものをどんどん綴じ、ファイルが分厚くなっていくことで素敵なものが増えていくことが実感ができ、自己肯定感が育ってきました。

「ふわっとことばの木」は、視覚的に子どもの言葉への意識を育てることができました。掲示したことで子どもたちは、木に実がなっていくことを喜び、「もっとふわっと言葉を使おう」という意欲が高まりました。

一人一人の子どもを大切にする取組４ ～学級経営・集団作り３～

こだわりが強く、うまくできないと苛立って気持ちを抑えることができないAくんが在籍する学級において、Aくんを支え周囲の子どももともに育つ学級集団作りを行いました。

〇担任として注意したこと

・Aくんと周囲の子どもたちとの関わりを見守る。

・しっかり向き合い、話をする。毎朝「〇〇くん、おはよう。」と、学級の一人一人に声をかけるようにしました。話しかけてきたときはなるべく聞くようにし、またその状況でないときは「～が終わったら聞　くから待ってね。」と伝え、その約束を守るようにしました。

教室にルールを掲示

・活動の内容や手順などを具体的に伝えるようにしました。

・がんばったときは、すぐにその場でほめることを心がけました。また、具体的にほめるようにしました。

・手伝ってくれたときは、すぐに「ありがとう。」と伝えました。

〇日常の取組での配慮

・学級のルールを徹底するため、学期始めや運動会など行事の前にルールを３つ発表しました。守れなかった場合は厳しく注意することも事前に伝えました。

・ルールは掲示して常に見てわかるようにし、学級全体に伝えることを意識しました。

・行事を学級全体で盛り上げ、一緒に楽しもうという気持ちを持つことによって、行事に向けた練習を頑張ろうという意欲を高めるようにしました。

・一人一人の子どもが、学級の一員であるという意識を持てるように、机を「コ」の字型に配置しました。
「お互いに何でも話しやすいように」「みんなの様子が見えるように」「一緒に授業に参加している気持ちになれるように」
また、クラスの一員として役割を持ち、取り組めるように配慮しました。

クラスの一員として

取組の効果

〇学級の子どもたちの成長

・学級全体に静寂な時間ができ、温かい雰囲気が感じられるようになりました。

・Ａくんが頑張っているときは心から応援し手伝うことや、苛立っているときはその理由を周りの友達が伝えようとすることができてきました。

・「あいつだけずるい。」とは思わず、違うことをやっていたり量が少なかったりしても認め、「頑張ってるね。」と声をかける様子が見られるようになりました。

〇Aくんの成長

・落ち着いて座っていられるようになり、全体が騒がしい時には、キャラクターのついた注意書きを貼って、静かにするように周りに訴えることもできてきました。

・「ありがとう。」という友達からの言葉が、また次の仕事もがんばろうという意識につながっているようで、グループのリーダーの仕事もできるようになりました。

・朝の挨拶の返事が毎日返ってくるようになり、声も大きくなってきました。

・机の配置により、周りの顔や様子が見えるので安心して授業に参加できるようになりました。

一人一人の子どもを大切にする取組５ ～全校での取組例～

子どもたちの中には「ありがとう」や「ごめんなさい」が状況に合わせ上手に言えない子がいます。また、友だちの中に入って遊べない子や、人の気持ちを考えられない子など、人との関わりがうまくもてない子どもたちがいます。

そこで、認め合い・支え合う学級、共に育つ学級づくりの基礎として、自分の考えや気持ち、相手に対する要求や学校生活で悩んだり困ったなと感じていることなどをもっとうまく伝えられるように、実際に演じながら練習していく取組を行いました。

こうした、対人関係にかかわる様々なスキルを、体験を通して学ぶ方法を「ソーシャルスキルトレーニング※8（以下ＳＳＴ）」と言います。

学校や学級で大切にしたいスキルを確認しましょう。
このスキルを使うと、どんないいことがあるのかも伝えます。

ＳＳＴの取組のながれ

①インストラクション
大切にすることに気付かせながら言葉でスキルを説明します。

日常的によくある事柄をとりあげています。

②モデリング
スキルの見本を見せて子どもたちに真似をしてもらいます。**楽しく取り組む！**

③リハーサル
ペアや小集団などで実際に活動し、練習を行います。

④フィードバック
やってみたことをほめたり、子どもたちからの感想を聞き、気をつけることを確認しながら、やる気を高めます。

⑤定着化
練習したスキルを実際の場面で使えるように、校内掲示などで子どもたちへの啓発を行います。

いろいろなＳＳＴ
《基本的なスキル》
あいさつ、自己紹介
上手な聴き方
《仲間関係・共感スキル》
誘い方、温かい言葉かけ
《主張行動スキル》
やさしい頼み方
上手な断り方
《問題解決スキル》
きちんと謝る
相手の気持ちと自分の気持ち
など

ロールプレイや紙芝居で、具体的にわかりやすく、言葉と行動を示します。
ちょっとオーバーに、「良い例」「悪い例」を示し、比較してわかりやすく示すことも効果的です。

○全校集会や人権集会を活用することや、通常の学級においても年間指導計画にＳＳＴを位置づけ取り組むことが効果的です。

取組例
１年「ありがとう」と「ごめんなさい」
２年　気持ちを知ろう
３年　ふわっとことばは まほうのことば
４年　言葉のひみつ
５年　自分の「身体」と話そう
６年　上手な言葉の使い方

取組の効果

各学級や全校でのＳＳＴに関わる取組を通して、子どもたち自身がスキルの大切さに気付き、学習したスキルを日頃の友だちや教師との関わりの中で意識して使えるようになってきました。また、教師も子どもとの関わり方を意識するようになり、子どもの良いところを見つけてプラスの表現を行うようになってきました。